

環海異聞

十

環海異聞

十一



Vertical columns of faint, illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page.



コーシキの図

コーシキは、コーシキロ
の又し、コーシキロに地
味の道流を、執す、其
し、其の体、横一、
光受、い、一、其、一、其、
其、其、其、其、其、



オクチヨ鳥之図



環海異聞卷之一終

島人男女並

少女之図

いづれ人の御名と
アリクローと申し
ソ



額上頭圍よりしり

肩より入る

不と彫して化

漢流より四日

折巻の付



入る



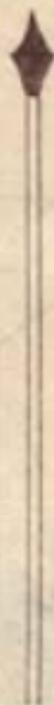
諸人^{しよじん}は^もも^も被^かと皮^{かわ}とと
 皮舟^{かわふね}と^もも^も舟^{ふね}と^もも^も供^{たす}と供^{たす}と
 供^{たす}と
 舟^{ふね}の^もも^も側^{わき}と^もも^も敷^{しき}の
 舟^{ふね}と^もも^も供^{たす}と^もも^も供^{たす}と



皮船合巻
二人乗り
三人乗りの
船あり



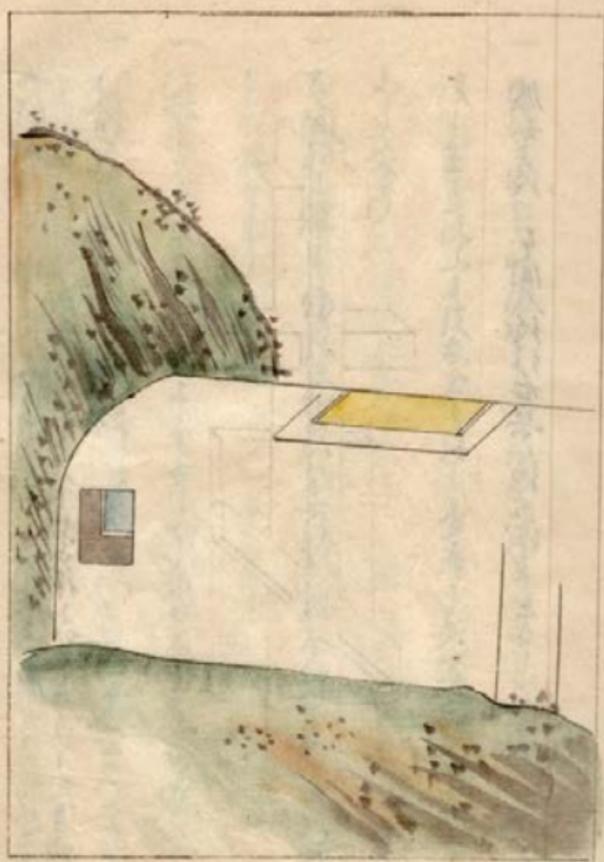
稱全圖



ナアツカ青西重人居所品

造り祇い同じく石室を丸
入口は狭きよりて板を以て
構凡れしりて其の隙を厚
とほりて土井の中心に二
うまの草を居をくまを
るふあうを丸をあるを造
一土室に四十八段に造り
内は石を造りのみしを用
いし中より人向の非を
たれくには切をさす

青西





才一ツカ
家屋図





旅の用をせし人の馬



あまのこころを
つとめて
まはるる



アウタニール以西
人家土室之景
鬼氷の板と
紅入しよちり



川氷の上人の赤い
雪車と四足の馬
を牽く様子



車のあし緒を
よめる人馬奴多
皮紐と糸も靴の
くちもおとめて馬
足とすす



同辛七月三日「オホ 津大夫

ツカ出立同十二月下旬 清藏

イルコーツロト著ス 己之助

吉郎次

市五郎

八三郎

民之助

マコーツロカニテ
西丸作函

津更ト上はオホトツロトかまのそいオロシア人事料を人
物若瓦七人トイ馬士トヤコトテト拾六七足トも

夏の途中に別後を扱ふ心よりゆゆしく金も亦

寛政七年乙卯八月十八日 儀兵衛

出立之須次 オホトツカ出立翌八年丙寅 善六

正月廿四日イルコーツロト著 辰藏

同八丙辰年五月上旬 左大夫

オホトツカ出立同辛 銀三郎

十一月イルコーツロト著 茂次郎

左平

太十郎

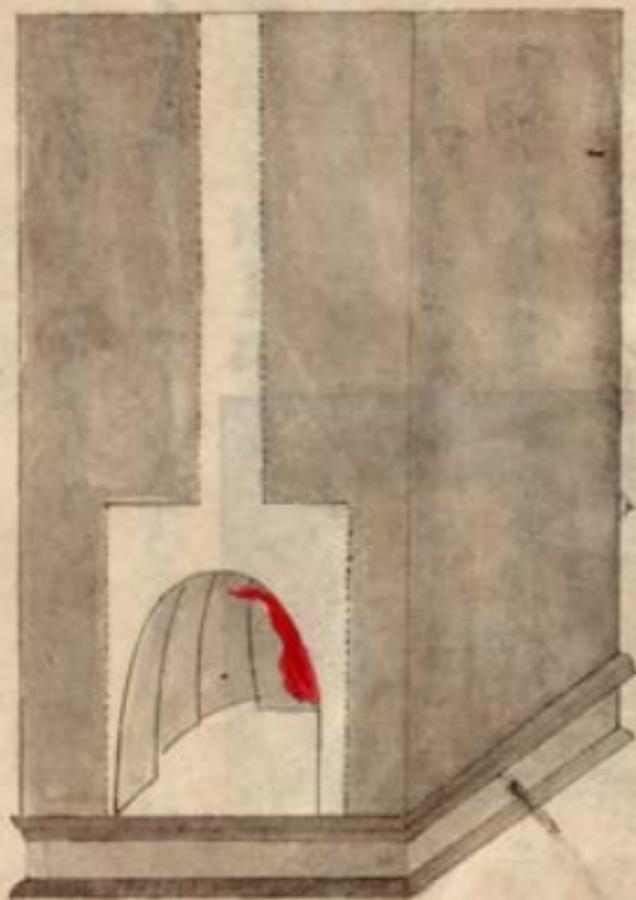
いねとついでにいねは
いねとついでにいねは

セイナカ図

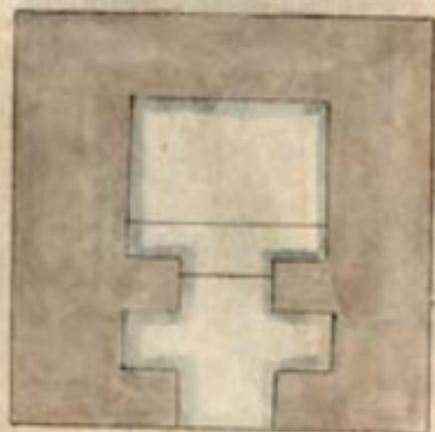
故と訪く野々
いねとついでに



一 七月頃の年中仙臺の八九月頃の氣能程に受入



フイナノト地



一家の旧い男も小椅子に明りて居るなり

椅子之器





明
和
の
家
屋
の
形
式
等
を
示
す
事
也

浴する者のヤセ

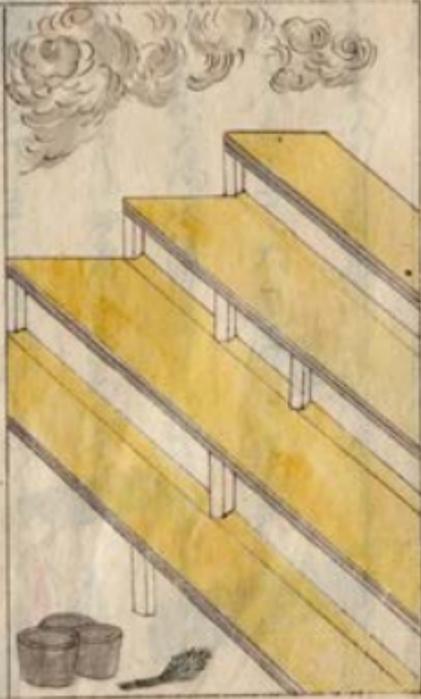
店のは

小桶

揚の葉舟の

校帯のは

礫石の水をくんで
湯氣を蒸せしめ



白木俵と成り、^{乾年款}又銘く白き幅廣のまじと襟(を膝)を膝して
おしりて食を漬き、食おきのやの月、^し汚ると汚くぬるる

牛円号入まそ
炊よ入れ煮る
瓶の湯



瓶をのせて電れ
肉(ち)入まそ
鉄釜のふ



食器の道具

食器三つ道具



カリトリス 草帽子道中專是、用

筋紅草

總テ赤黒

色ノモ草

ナリ

夕ム時此

折メ内ニ入

前後共ニ黒キ

ホソクノ如キモノ

ナリ



後

ハチノ裏カバ色ノフスヘ草也

ヒトヘノトモ草ニテ造

前

カリバーカ

メリマス頭巾

メリマスノ如クアミタルモノ也



此ツリメヨリ内へ折込テカムル也

此帽子在者ノ時ハ男ヲ女共ニ冠ル也亦寝ルトキモ冠ル

母ニ和蘭スハ「スラップ」ミユツフ「トイフ

睡帽ノ義ナリ



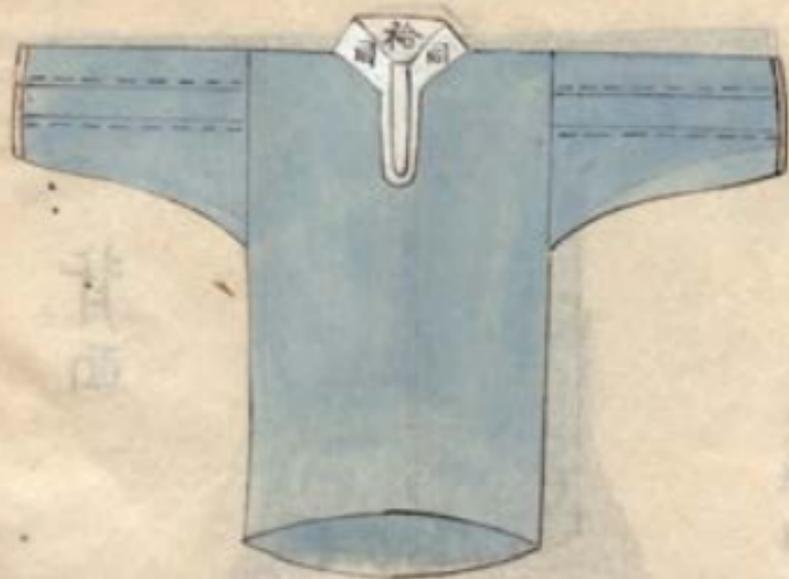
背面

ハーフ

肩

肩

肩
肩



シリバーレカ

肌へツケテ着ル縞半ナリ
麻ニテモ作ル

濃^{コイ}浅^チ葱^イ木綿縞半
単^{ヒト}總共色

背西

シタイ

薄籠大綿股引



背

背面

ノ
下

新
原
大
結
組
袴





背

ホツシ白布ニテツ・A

カミソー
木綿胸著

留甲色草

ホリコリが
ボクニ共キ
ミキ包ム



カミソー
木綿胸著
留甲色草

背面

白麻
七ト八





フハイカ 胸着

カミフト同メ仕立
少し透フナリ

白地形付胸着

衣白ナリモノノ如キ物多ク結ニ五シク

總白麻裏

但背白麻草

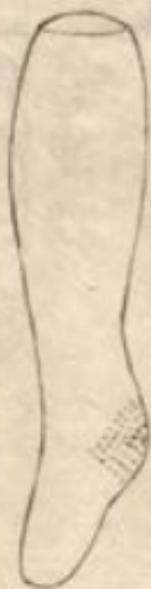
濃紫

白 淡紫 白 淡紫 白 淡紫 白 淡紫

如此

ナヨロケ

白木綿足ノメリヤス



ナヨケイ メリヤス組ニシテ足ヨリ膝ニテハメルモノナリ其上ハ草ニテ作り
シル頼サハキトイフモノヲハメル

シヤーガ 茶色木綿帯

ヒメフトリヌム

田舎ニテセリトクク著メル上
シメルナリ



兩ハシニ如此
カサリアリ

フサ共ニ一丈

二尺六寸五分

ホロケイサ
白麻手拭
モノニヨケテキテ手ヲツラシ

ホロケイサ
長七八寸
幅一尺四寸



兩端如此カサリ
メリヤスノ如ク
ノミタレモノナリ

ツリセアノ
オウカ酒團

環海異聞卷之四終



白鳥毛ノ如キ
ヒノノ入心

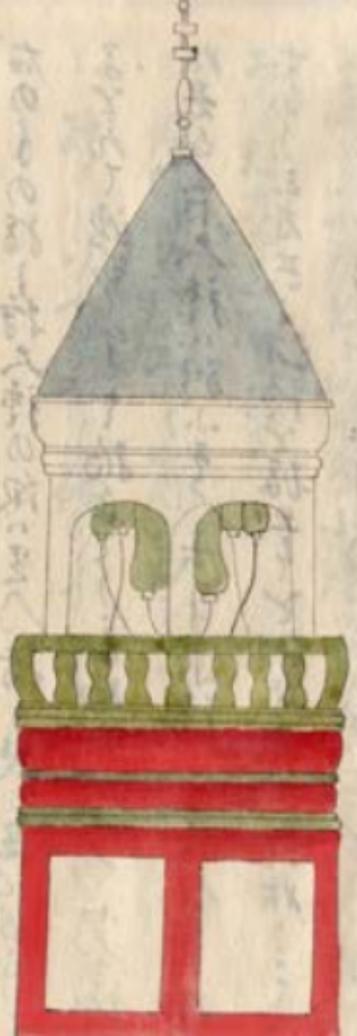
此紋白

此文白

此文緑

此紋赤紫

鐘樓圖



鐘樓の図
教の鐘とて
まじりたる
句々々



大寺
圖
衣
面



同堂

同堂
內圖



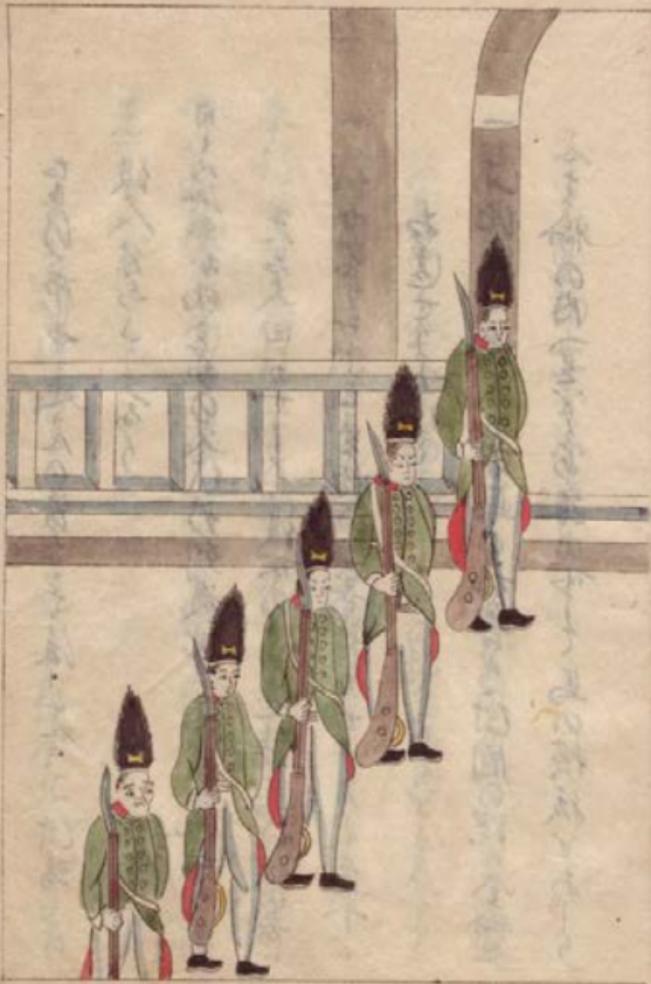


アリヘイ 大和尚 帝より賜ふ冠帽也。

上頂の金の十字冠帽の上の金銀珠玉と並び



一時後とありす寺ニナ寺よりを衣は田所はもと之時の事といや
ホスといふはよ敷六つ角ナを附よせつむ附よハつむを附よ



龍吐水と皮袋とをなす

大河道具

和宗としてハコル
フラントナボイと云

本作りのお核本へ
を丸めると云々



徳府より上りの...
 法流の... 同... 右の...
 果粗写せるもの... 考へるに大略を
 知るべし...

當十 錢



黒赤

左右ハリホリト云歟



同

中央ハ母帝エカテ
 リナノ記号

セニシカ



黒赤也



同

スエシ
ブ
銀鉄



同



按和菓ノ書ニハ「セニシカ」又ニ「セニシカ」ト云其説ニ云コレ魯西亞ノ錢
 和菓ノ「ハテ」ハ「ストイ」ヘルニ「アタル」ストイ「ル」ハ「ル」ニ「重」ニ「分」アル小銀錢也

紙錢 分キ
 銀シ

水より南より又程百里と云はれは法回海を以て
水不毛の地多しといふも亦傾の事亦の列部
實に世界一の鉅部と云下

秤量牙十三

法馬 分初世 とベナノニと云
フコトウ

手把 手把

物ツツケル

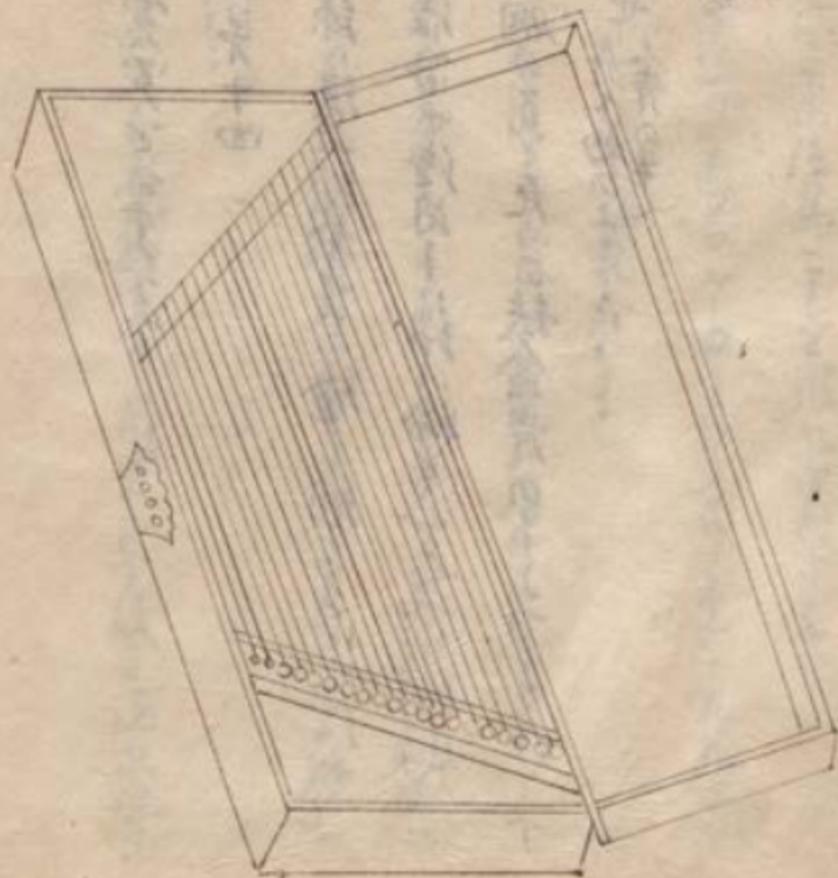
コニ輪金ツツケツリ

衝ハ金ふミヲ作ル如地キボウ
シラサホツツケル物ナリ

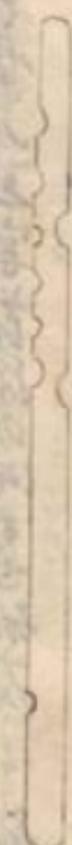
此亦ハ物ノ性也
ヨリノ自中ニ遠近スル
ツツケル

コーミンナ

蓋ハ際つみそ
つせうじやまの
言ふ由河の唱守
くうなてり



トウチカ



ケレフコ



ハライカ



大鞆 ハラハニ

又長子武石牛^{ウシ}して^{シテ}人^{ヒト}キ^キ吹く^{フク}完^{マツル}む^ムの方^{カタ}旋^{マユ}回^{マユ}吹^{フク}物^{モノ}

る^ル名^ナハ^ハ不^フ見^ミ
抑^{オシ}和^ワ宗^{ソウ}ヨミ云^{クニ}け^ケ外^{ソト}樂^{ガク}意^イ色^{シキ}一^{イツ}之^ノ一^{イツ}一^{イツ}一^{イツ}

見^ミる^ルと^ト此^{コノ}亦^モの^ノ意^イ意^イ首^{ウタ}探^{サグ}の^ノ時^{トキ}用^{ヨウ}也^ヤ部^イ府^フと^ト報^{ホウ}劇^{ゲキ}と

見^ミる^ルと^ト亦^モの^ノ意^イ意^イと^ト以^モて^テ合^カ奏^{ソウ}と^ト樂^{ガク}人^{ヒト}亦^モ彦^{ヒコ}の^ノ

魚右おはまの魚状小なりて形よふと似る是とみ
天信入る時死よりおとて是を加工して魚の形と
なす

ソーパー
尻尾



燭臺

ホーシユウエシカ

提燈

ハナシ



ハナシ 板硝子とはともあつる物と雲母ともうしつる物と

二種あり

帯ワイナイカ

櫛ケレベ

草袋

牛皮

長靴

櫛

草袋

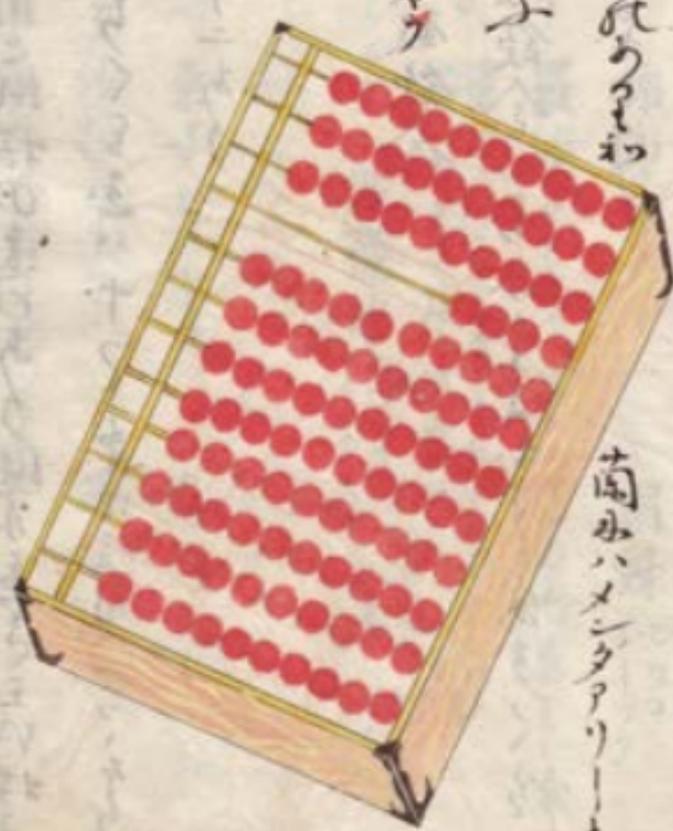
文政のころ十貫中

扱よお困書よ法固けけめの字多く載する

とれうのわ

よ

十露盤
シラチャア



十貫中ハメニタアリト

[Faint, illegible handwritten text in the background]

然
言
草
實
赤
其
苦
炭
無

言辭

草
實
赤
其
苦
炭
無

實
赤
其
苦
炭
無

赤
其
苦
炭
無

其
苦
炭
無

苦
炭
無

炭
無

無

花

花

實

赤

其

苦

炭

無

言

草

實

赤

其

苦

炭

無

言

草

實

赤

其

苦

炭

無

言

草

實

赤

其

苦

炭

無

丁寧クしよ

ワットロイヤ

雅さゆきります
あつはさうります

ボツコニシテ ボラゴタリヨ

あて馬りしれと

ホツコニシテ おラグサストイ

あきのこはあ

振れての

ナットロイヤ

礼よ下 モイボタル

わすります

礼よ下

トされぬこボタルウ

何よ ヤマイ

あ一歩。 ナツワル 大巾使ふゆくとしよ

人の ナヨロウエイ

しちや

他の内よ入り振え

クアストイ

我より目よを婦人よヲタリコトシ

汝よますしりお

クアストイ

附りしよ

久しく振回

クアストイ

上へ附りしよ

あきのこはあ

クアストイ

うエとあはれん

目よをま

カロワミサヒ

テハイ

あきのこはあ

カロワミサヒ

テハイ



Vertical columns of handwritten Chinese text are present on both pages, likely describing the illustrations. The text is written in a cursive style and is partially obscured by the illustrations.

風扇之図

ひたのき
風扇
と名づく



此の風扇は、昔の人は、
 糸を紡ぐに用いた。其の
 構造は、木の柱を立て、
 上を板で葺き、その中に
 大きな車輪を置き、風が
 吹くとき、この車輪が
 回り、糸を紡ぐ。今でも
 一部の地方で使われている。





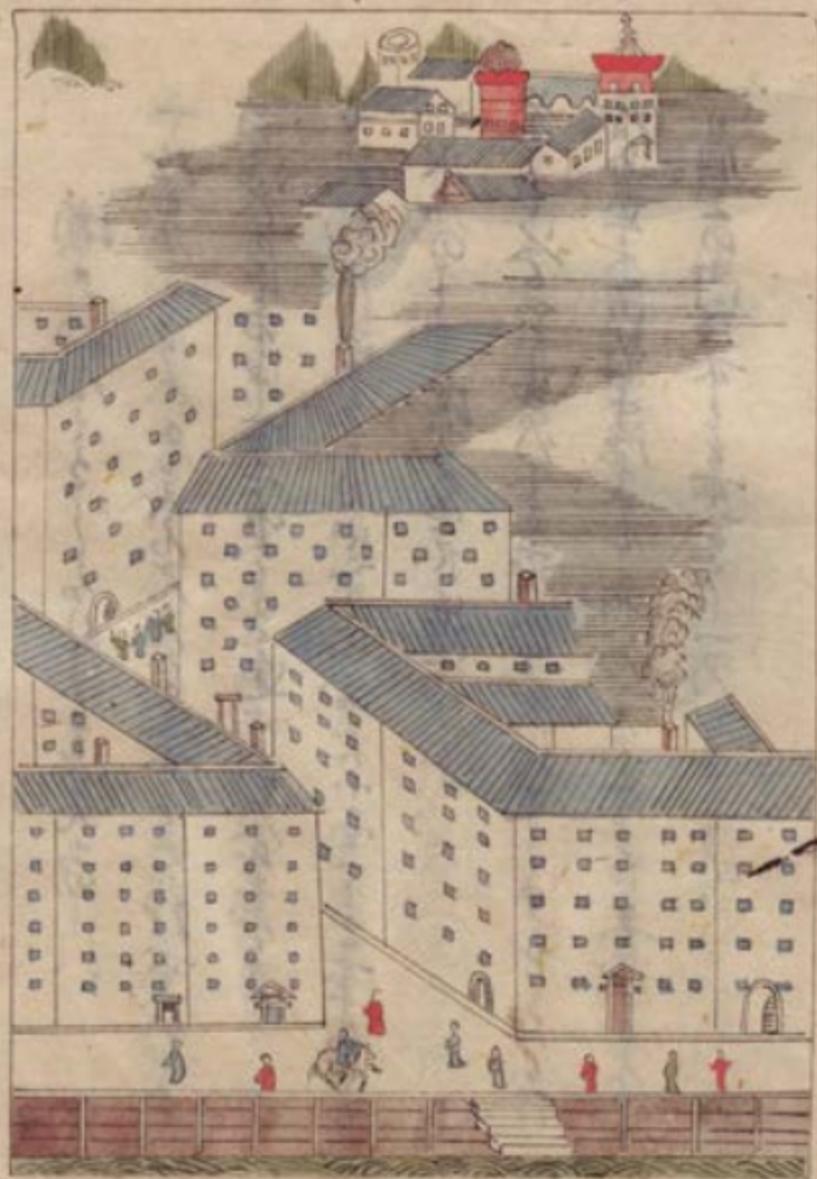


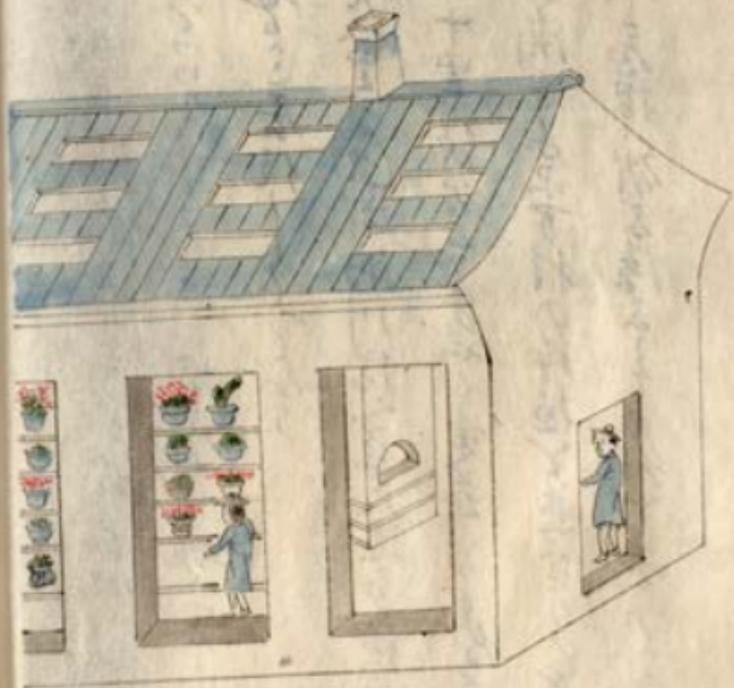
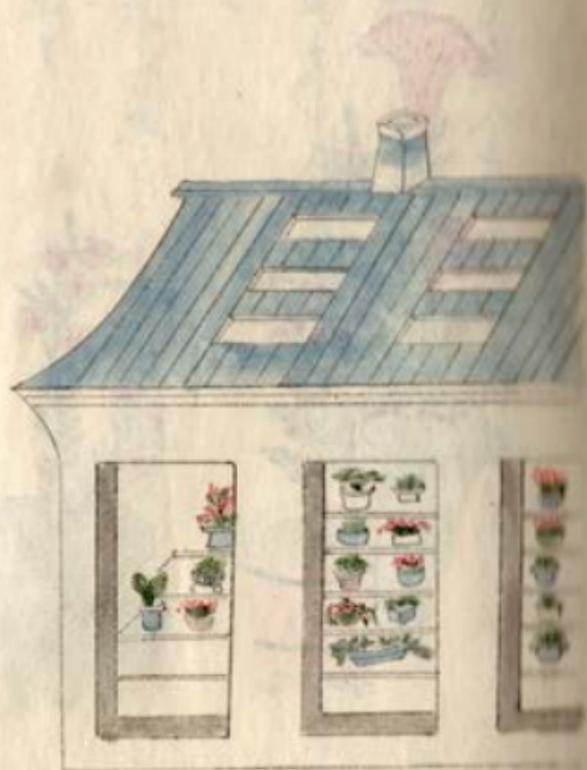




環海異聞卷之十終







千
引
鉢
梅
の
り
入
上
土
定
保
池
を
箱
根
の
湯
水
も
も
る
（
き
）

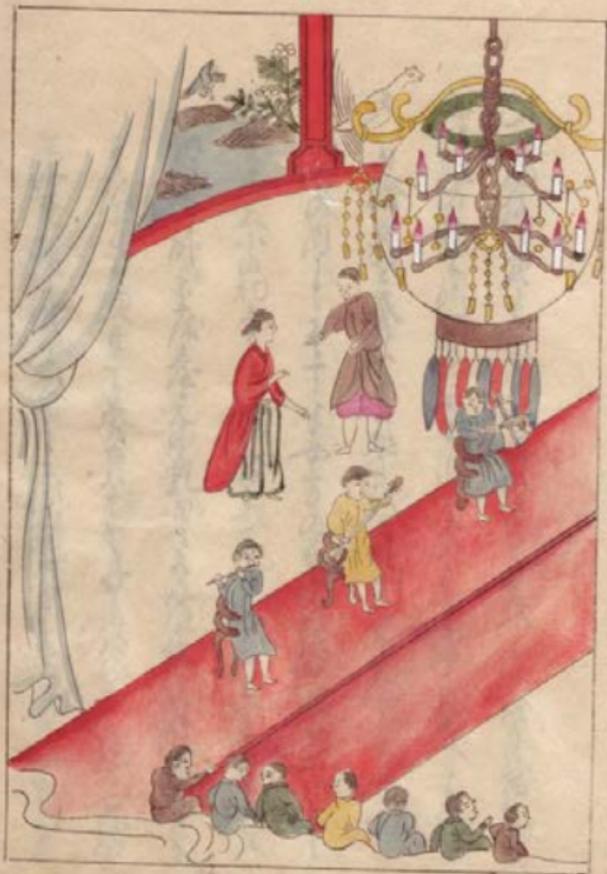


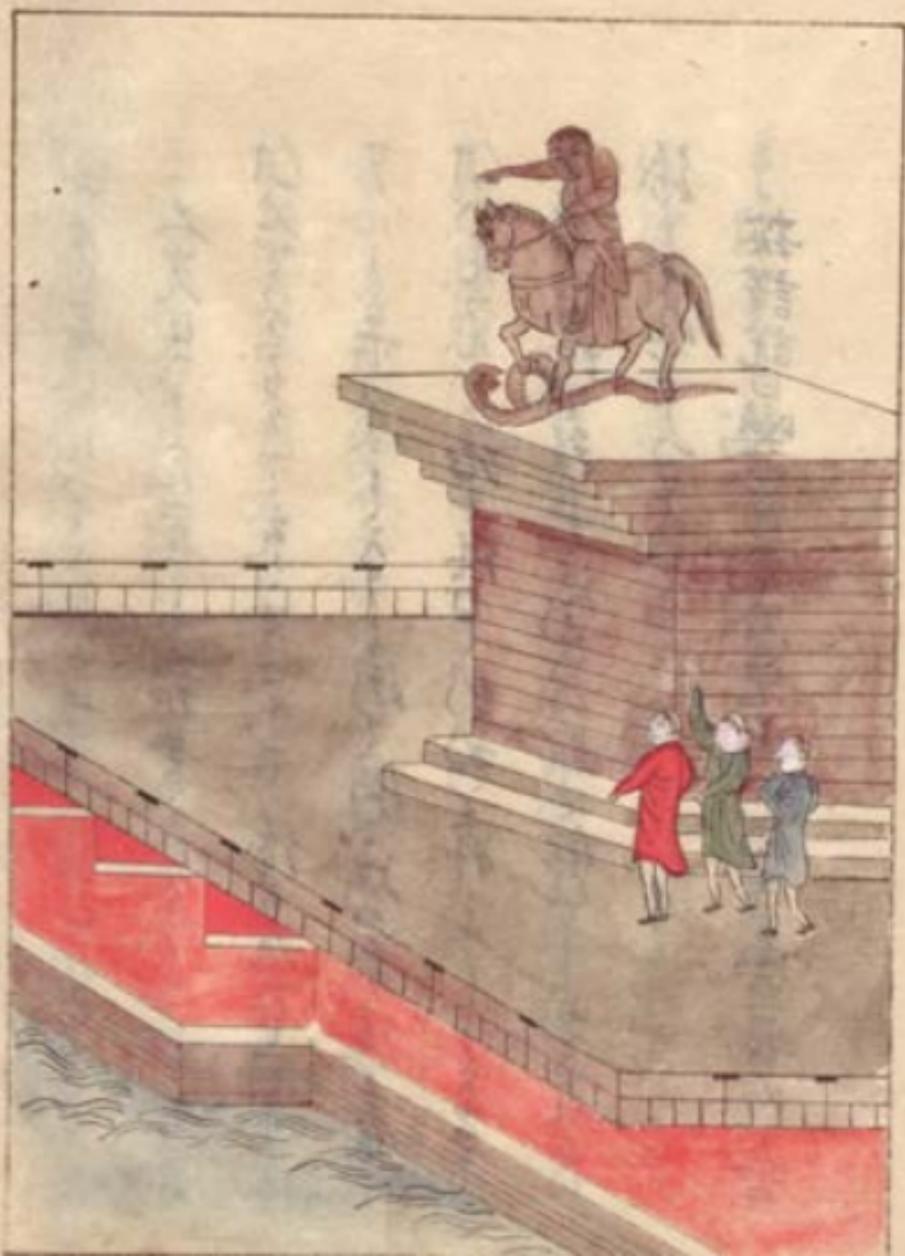
花は赤くも白くも
夏にのこる

園



花は赤くも白くも
夏にのこる
園









梅の花の式に云ふに

一葉二葉とて或は八葉の如し

一葉の如きは白く

八葉の如きは

一葉の如きは



一 綿ハ山ハも園ハも種ハ前ハもハ此ハ尺ハ天ハ福ハの本ハ之ハをハ予ハ大ハのハま

新ハ物ハのハ系ハにハ送ハやハのハるハ梅ハ本ハ修ハのハり

一 黒ハ本ハ厚ハ赤ハくハ卵ハ黄ハ色のハ所ハもハるハものハとハ紅ハ酒ハもハれハるハ

魚名

一 田中魚

一 魚名

一 魚名

一 魚名

一 魚名

一 魚名

一 魚名



魚名

カ
ル
ル
セ
ル
圖



島人男女圖



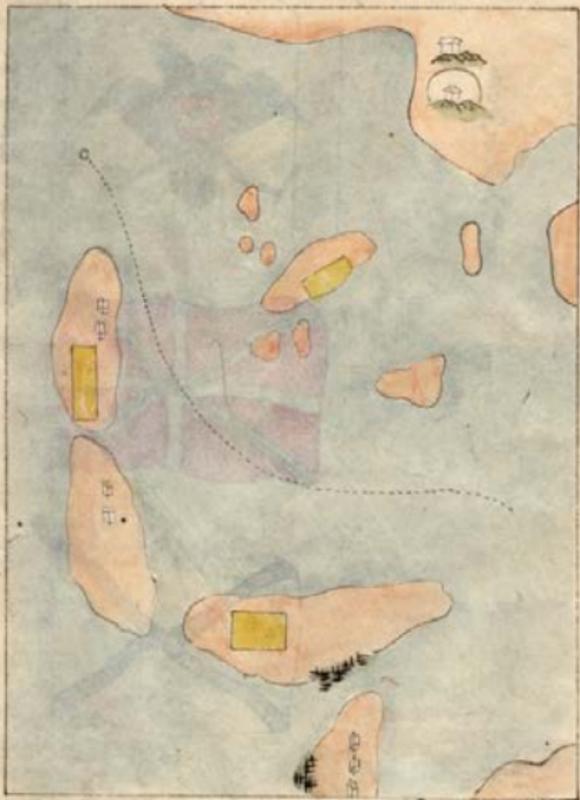
ニルケイカ嶋船図



サニベイツケ島人男女図



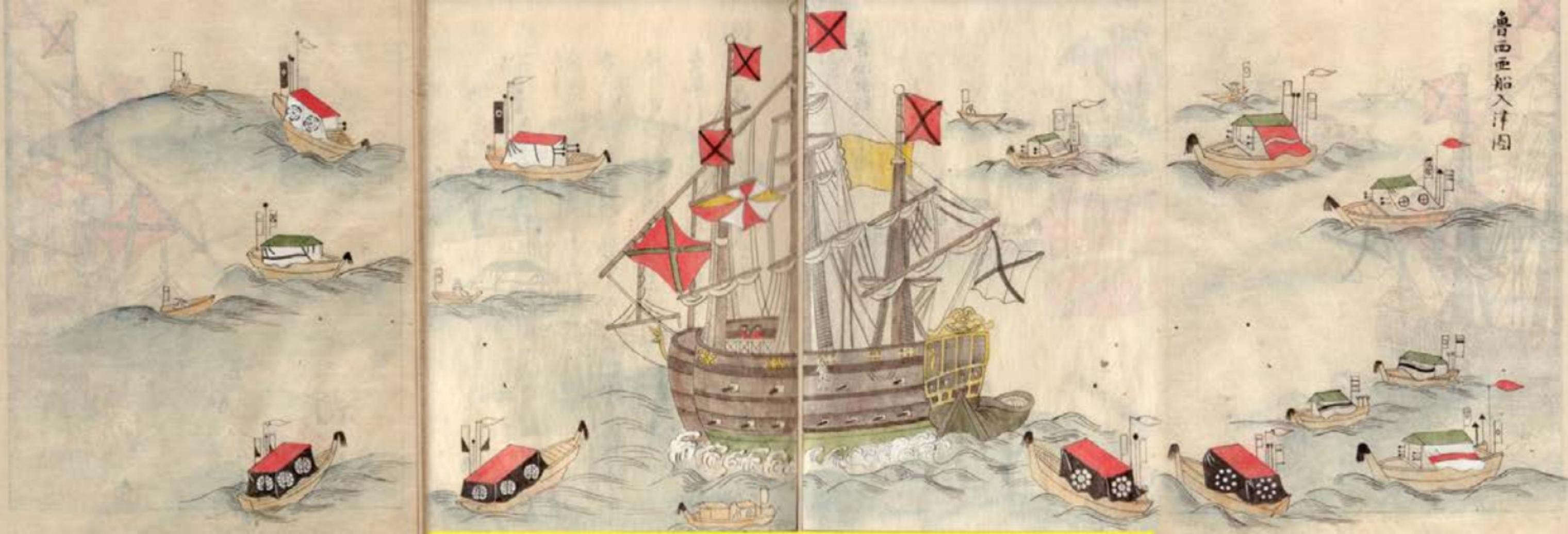




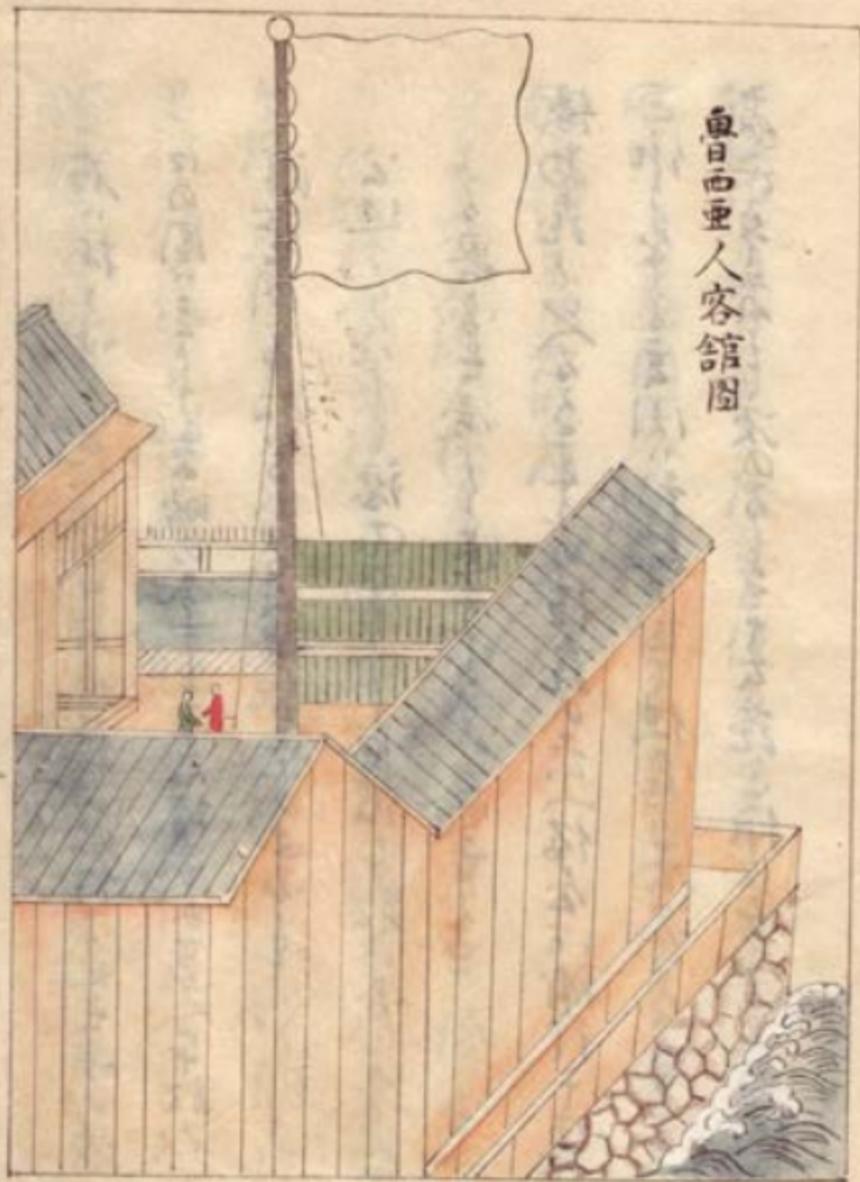
長崎湊口圖

魯西亞國船印小旗





魚目西重人客館圖



使節レサノツト等之像
并冠帽諸図

ニヨウレサノツト 歳四十一



上案針役

ウーとミソフ

歳三十四



歩卒
カハ
シ
カ
ル



星将何とぞ討の衣服之濃雨其尻抄之其内大振とあつ者川急せ
也乃神の星将討人？使衣の於全の内し物をよみ返す



冠帽



本國産物
五七二

拔し哈鹿
漁獲





新造軍船圖

